

Title	近世資本主義起源考続論 (四)
Sub Title	
Author	阿部, 秀助
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1922
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.16, No.11 (1922. 11) ,p.1527(27)- 1532(32)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19221101-0027

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

でも、或商品に對しては大に需要があつて他の商品に對しては甚だ需要が少ないとすれば、一方は價值の比例以上、一方は比例以下に賣れると云ふことが起つて來なければならぬ。此状態の永續することを許さぬのはたゞ自由競争(生産者が生産物の其價值以上に高價なる所に集まる)による供給の調節があるに由るものであるが、此假定が許されぬとすれば、此調節も行はれぬ筈であるし、又此假定を許せば、今前に述べたやうな結果に陥るのである。凡べて此等の點に注意する上に於てマルクスの初期の價值論價格論を參考して其思想發達の經路を窺ふことは決して無用の閑事業ではないのである。(完)

近世資本主義起源考續論(四)

阿 部 秀 助

五

戦争の勝敗が主として之れを企てしもの、有せし軍資金の大小によつて決せられしことは吾人が既に昔時に於ける日耳曼民族の間に於て見し處で、ビザンチウム帝國が四隣の諸國に對して國運を維持せしも又た雇兵制度の結果である、其他西曆九百七十六年から九百七十八年にかけてジェニスの大統領であつたピエトロ・オルセロ一世が雇兵制度を布きしが如き、西曆十一世紀にノルマン人がサルノの大公に雇はれしが如き、更にアンジュのフルコ伯が記述せしものによれば伯がブルターニュの領土に關してシャルトリーのオドと争ひし際には彼れの部下に雇兵を使役せしといふことである、尙ほマチルデ伯夫人の有せし雇兵は獨逸を始めし各國に國籍を有せしものより成立してゐたのである。斯くの如きは

明かに軍事上に於ける資本主義の滲透が既に十字軍以前に存せしことを示すもので殊に戰時的企業の資本主義化が最も早く發生したのは以太利の都市殊に之れが海港で此の方面に於ては恰も株式組織の企業たる性質を有し、普通斯くの如き戰時の場合に於ける出資者のは戦争其者によつて齎らされし分捕品の分配に参加し得し點に於て之れが割前は戰場に於て努力せし將士よりも遙かに大なる部分を占めたのである。又、封建時代に於ける主従關係が必ずしも絶對的のものでなかつたことはノルマンダーのウィリヤムがイングランドを征服せんとせし際に彼れの部下が其命を奉せざりし一事によつても之れを知るを得るのである。斯くの如く主従關係が絶對的でなかつたことは自から他に之れが不足せる數を補充する必要があるのである。現に其部下に拒絶せられたウィリヤムは高率の給金とイングランド征服の壯舉とを名目として佛蘭西其他の方面から雇兵を召集したのである。而して以上の如き事情は尙ほ昔時の希臘に於ける *Condottieri* の如き一種、戦争請負を業とするものを生ずるに至つたのである。即ち之が業務とする處は若干の資金を支拂しものに對しては相當の戰鬥員を供給し又た作戰的方

面にも預つたのである。而して之が當時に於ける代表者はロマンツェンの騎士であつたシード・カムピアドルで彼れは各國民よりなる七千の雇兵に長として或時は基督教の王侯の爲めに又、或時は回教徒の爲めに戰つたのである。而して之れが目的とする處は宗教の如何にあらずして單に軍隊に支給せられし軍資金又たは分捕品に存したのである。次ぎに豊富なる軍資金を擁してゐた英王ヘンリー一世は千百三年にフランダーのロベルト伯から年に四百麻を支拂つて千人の騎士を得たことがある。是等の騎士は勿論、封建的制度の命ずる處によれば義務以外の服役なるを以て伯は彼等に對して特に一定の給料を支給するの必要があるのである。此場合に於ける伯は一種の戰時的企業家で彼れは自己の許にある勞力を買つて之れを英王に賣付けたのである。而して斯くの如き組織又たは方法はヘンリーの後繼者たるステファンの時代に於て完備し、其處には千人の常備軍が設けらるゝに至つたのである。が之れが最も勢力家はイーブルのウィリヤムで彼れは手工業者其他下級階級のものを一團として雇兵制度を組織したのである。要するに以上の史實によつて明白となつた點は攻撃的行動に對しては封

建制度は寧ろ之れを拒否するものなるを以て特に斯くの如き場合には軍資金の幾部分を以て騎士を雇入るゝことが必要である。茲に戦術上に於ける資本主義の滲透の所因を求むるを得るのである。而して資本主義其者の滲透は單に以上述ぶるが如き騎士のみに止まらずして射手、弩手其他の補助部隊に對しても同じである。

軍中にある商人が之れが部隊によつて齎らされた分捕品を買求めて更に高價に賣拂ふ史實は既に羅馬の時代に存する處であるが、更に以上と全く異なつた利益を十字軍時代の商業は齎らしたのである。即ち十字軍以前に商業及航海業に於て既に發達した以太利の海港は十字軍によつて更に新たなる膨脹發達を遂ぐるに至つたのである。殊に是等の都市をして大なる利益を擧げしめたものは十字軍の從軍者を輸送せしこと、同時に東洋方面の産物の集散地たりしシリア、パレスチナの諸港が十字軍の結果基督教徒の勢力範圍と化し特に以太利の都市は是等の諸港に各自の居留地を設くるに至つたことである。

以上、資本主義の發達が封建制度の崩壞を意味すると共に他の一面に於ては封

建制度が資本主義の上に及ぼした影響も少くないのである。例者、ヴェニスには自己が武力によつて占領せしカンヂア及コルフを維持する必要上、此方面及其後はモレアに於て封建的の經濟及社會組織を實施したのである。即ちヴェニスの金權的豪族が一種封建的の領主となつたのである。而して同市の殖民地に於ける封建的貴族の成立は千二百九十七年に於てヴェニスに於ける世襲的貴族を齎らすに至つたのである。又、ゼノアも彼れが有せし采邑は同市に於ける貴族の領する處となつたのである。

更にレヴント方面に於けるヴェニス及ゼノアの殖民地に於て吾人の見る處は昔時の封建的土地使用方法が漸次資本主義化せんとせしことである。即ちカンヂア、チオス、サイプラス方面に於ける中世の農業組織が資本主義化せる如きは之れが一例である。次ぎに東洋方面に於ける生糸其他の生産が始めて以太利に資本主義的經營を教え、斯くして家内工業又は製造所なるものが成立するに至つたのである。

尙ほ資本主義は以太利其他諸國の農業上に關係し又當時發達せし都市は是等

の農産物の市場に化するに至つたのである。又一般農民の地主に對する關係は契約によつて前者は後者に其勞力を提供するのである。斯くて水呑百姓は解放せられて一部は日傭により一部は永小作人又は普通の小作人によつて補充せらるゝに至つたのである。斯くて十字軍は之れを一面より見れば封建制度の最高點に到達した時代の如くに見ゆるのであるが、然し他の一面より見れば既に此制度を破壊せんとする新組織の發生せるを見るのである。

之れを要するにブレンタノ教授の説は商業、金貸及戰事の中に近世資本主義の起源を求めんとするもので資本主義的基礎の上に組織せられた十字軍從軍者の戰爭は之れが影響として以太利其他の諸國に於ける工業及農業に資本主義的經濟組織を注入するに至り、斯くして資本主義は十三、十四、十五の三世紀を通じて以太利に於ける各種の産業を支配するに至つたと云ふのである。

英國に於ける經濟的秩序の恢復

堀江 歸 一

本論は前號に掲げた物價問題に關する二三の考察の續稿として、執筆したものであります。

英蘭銀行の利率引下

英國の經濟組織并に經濟制度は歐洲戰爭の爲めに、大なる打撃を蒙つたが、今や聯合諸國全體を通じて、最も早く恢復の曙光を仰ぐを得るに至つた。私は前號の本誌に於て、物價問題の方面から聊か此事を論述したが、本號に於ては金融并に銀行業の方面から、同様の研究を試みようかと考へる。

歐洲戰爭の開始以來英國金融市場の金利歩合は、戰前の平和時代に行はれたものに比較して、常に高率に居ることを免がれなかつた。試に開戦以來最近に至るまでの英蘭銀行割引歩合を見ると、左表の如くである。